

杜乃杵

秩父神社社報

杵乃杜 (ははそのもり)

第 18 号

平成 10 年 12 月 3 日
(大 祭)



曳き廻す
山車と人々
踊る所
風花しそと
舞ひて
やみばし

彩の國お宮宣言 さいくにみやせんげん

埼玉県神社庁では、平成十年度から三年間の活動指針をにかけて、県内二千の神社と六百八十万県民の皆さんと共に歩むことにしました。当社も、各社と共にその趣くところを進みます。

一、森とまちづくりをすすめよう。

鎮守の森を中心に故里のまちを守ることは、世界に誇る日本の文化です。

当社も、悠久の昔から大神の鎮まります は、そもり “柞の杜” を大切に みょうけんまち “妙見祭” の賑わいを守ります。

一、子どもと家庭を大切にしよう。

子どもは社会の宝です。その育成を母親と先生に押しつけないで、家庭を大切に地域ぐるみで育て合いましょう。郷土文化と子どものしつけは一体のものです。当社も、各種の催して境内に子どもたちの歓声を呼び戻します。

一、英霊と先祖を大事にしよう。

私たちは、今の恵まれた生活を当然のことと思ひ込み勝ちです。

かつて護国の英霊の尊い犠牲と、先祖たちの必死の故里づくりがあつてこそ、私たちの今があることを決して忘れてはなりません。当社も、地域の皆さんと共に鎮魂の祭に努めます。

解説 秩父神社 (17)

彩の国 名工会々長

坂本才一郎

◆ 秩父神社社殿

災害復旧工事覚書

(6)

社殿の彫刻 (三)

秩父神社と仙人の彫刻

神社の裏の額殿に吊ってある縁に牡丹唐草の彫刻を施した妙見宮の額がある。この額は中世末のもので多くの納額の中でも逸品である。

妙見宮とは妙見菩薩をお祀りしてあるお宮のこと、妙見菩薩は妙見尊星王や北辰大菩薩とも称し、国土を守り災いをなくし、死を除き生を定め、益々幸福をさずける菩薩である。又この菩薩は衆星中の最勝にして、多くの仙人の中でも上位の仙人である。



神札授与所に祀られる妙見様

妙見宮の額 →

妙見宮の額は、桃山様式の奇抜な彫刻が秩父地方にも一ヶ所存在する。それは札所二十五番観音堂の彫刻である。堂は三間四面で軒の出がつまりみるかげもないが、柱上の組物は出組で、この組物を通肘木で繋結したので、通肘木から下は琵琶板で上は枝輪である。この琵琶板と枝輪を共通の雲竜の彫刻としたので、琵琶板に彫刻した竜は尾を残し、通

これらの御神徳には不老不死を理想とする道教の思想が多分に影響しているが、道教と仏教は互いに絡み合い入り組んで、ほぼ二千年の長い歴史がある。

日本の社寺彫刻の仙人は役公小角で、役行者として中国の仙人にも劣らぬ日本独自の神仙界の第一人者である。また飛行の途中、久米川で洗濯している里の女の太股を遠目にみて恋心を起こし、神通力を失って大地に落ちた久米仙人の逸話は特に著名である。

秩父神社々殿の如く壁面を彫刻で飾ることは桃山時代からである。この時代の奇抜な彫刻として著名なるは高知市一宮町の土佐神社々殿、京都の大徳寺唐門、仙台大崎八幡宮等であるが、大崎八幡宮は向拝柱を竜の彫刻が貫通して向かいあっているし、大徳寺唐門は頭に貫に波文彫刻を施し、柱際に鯉の尾の部分の彫刻を施し、鯉は柱を貫通して木鼻に頭を彫刻している。土佐神社々殿も同様である。

神社は元は妙見宮であるので仙人の彫刻の多いのは当然である。更に神社の彫刻が秩父祭屋台に大きな影響を及ぼしたことも「中町屋台永代帳」からみて明瞭である。

神社の拝殿裏側から幣殿にかけて様々の仙人の彫刻がある。之等の仙人は中国人達であるので「支那仙人列伝」から要点を抜粋し解説します。

◎ 亀にのる黄安仙人 黄安は代郡の人である。年一萬歳を越えたけれど、容貌なお童子の如く、平生碌砂をとって服して居たが、赤い銅色になった身体をむきだしにして、衣服を着るということはなく、家にいる時には三尺程ある大亀にのっている事は今年で何年になるかと聞くと、この亀は三千年に一度頭を出すので今迄五度頭を出しているの一万五千年と答えた。

◎ 鯉にのる琴高仙人 琴高は琴の名手で二百年も放浪していたが、自分の弟子達と家に帰る日は約束してあった。やがて、その日がくると弟子達と群衆一万余

肘木を貫通し枝輪に頭部を彫刻している。彫刻は江戸時代中期で迫力はないが桃山彫刻の奇抜な手法を踏襲した類例のない彫刻である。

秩父神社々殿の彫刻は桃山時代彫刻の余韻をのこし、手法雄健にして活気を呈し、拝殿向拝の虹梁に付したずっけそうな狸々の彫刻や、つなぎの龍周辺に散らした飛雲などは桃山式の奇抜な手法である。



老子

人が河原に出迎えた。河底より音楽が流れたかと思うと、波が高くなり、琴高は二尾の鯉にのってあらわれた。

◎ 老子 道教の開祖で生まれた時から聖人の相を備えていた。漢の文帝は老子の道をこのんでいたので、老子のもとに使者をつかわし道を探ねられた。その時老子は道を探ねるには相応の儀式がある。使をもって尋ねるなどは不遜も甚だしと怒ったので、文帝は老子のもとに至り親しく道を探ねられた。この時、皇帝は王は一天萬上の尊位にあって、人類の最高に位するものである。然るに汝は不老不死の道をきわめた者であっても、朕が民の一人ではないかと申された。老子、之を聞くや座しながら身を躍らすと、空中に飛び上り百余丈で停止し、御覧の如く我が身は空中にあり地上に届いていないので何人の民でもないと言ったので、皇帝も己が非を悟り禮を盡して詫言られた。また、其の外仙人の彫刻群は次号に記します。

いまマチが危ない―家郷社会の崩壊

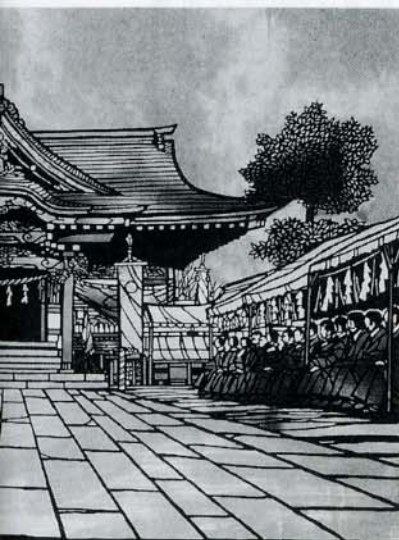
宮 司 蘭 田 稔

いま日本のマチが静かに崩壊しつつあります。地方の中小都市を内側から支えてきたマチ衆の生活が脅かされているからです。全国の市町村では街なかの商店街にめっきり買い物客の往来が少なくなり、何世代も続いてきたはずの老舗も含めて店を廃業する例が目立つようになりしました。まるで櫛の歯が欠けるように、戸締めのまゝか空き家になった商店が増えてきたのです。

○商店街の空洞化

つい十年前には、世のバブル景気に踊り狂った企業や金融業界が本業をそっちのけで土地や不動産を買い漁り、特に大都市の都心部での強引な「地上げ」で、それまでつましく家業を営んでいた住民たちの店家を根こそぎ奪い取ってしまいました。おかげで、従来は欧米で問題となった都心のスラム化という深刻なドーナツ化現象もなかった日本の大都市にも、いまや肝腎の住民不在でビジネス・ビルばかりの無機的な都市の空洞化をきたしてしまいました。生活する人々の温もりのない都心は、もはやコミュニティの成り立たない砂漠地帯に成り果てたのです。

ところが近年は、大都会よりも地方の小都市にも軒並み容易ならぬ事態が生じてきました。それが、商店街の空洞化現象なのです。それぞれの土地で親子何代にもわたって営々と家業を営んできた、それぞれの街で地場産業や土地の名産に誇りをもって、父祖伝来の町並みを支えつづけてきた町屋が、商いのき



びしさに耐えかねてつぎつぎに廃業しているのです。いったい、これはどうしたことでしょうか。
当面マスコミの話題にされているのは、現状の深刻な構造不況であり、中小企業に皺寄せされた金策のゆきづまりと連鎖倒産ですが、商店街の空洞化やそれにとまなうマチ社会の崩壊は、それだけの原因ではないのです。

○第二次アメリカ占領時代

これは、やはり大企業中心の市場主義経済が、その果てしない開発競争のなかで既に飽和状態に達した国民の購買欲をさらに駆り立てるようにして、少ないパイを奪い合うという商業戦略を、ついに全国の地方都市にまで及ぼしつつあるからです。

もちろん、その遠因は米国主導のいわゆる文明全般にわたるグローバリゼーション、すなわち経済や情報の国際化にあります。特に米国政府は、巨大な無国籍企業に後押しされて諸外国に企業活動の規制緩和や撤廃を強要してきましたが、とりわけ日本には対日貿易赤字を理由に厳しく経済開放を迫ってくるために、つい日本政府も弱腰になって全面的な企業活動の自由化を認めるにいたっているのです。いまこれを称して日本経済のビッグ・バンとか維新以来の開国とかいいますが、しかし実際は、戦後の占領時代に次ぐ第二のアメリカ占領時代の到来というべきでしょう。つまりは、アメリカ文明による日本支配ということなのです。

ことです。このままでは、日本全国の町がディズニーランドとマクドナルドとコンビニとスーパーマーケットにその活気をすべて吸い取られて、無気力な廃墟になりかねないのです。

○郊外型大店舗群の商圈破壊

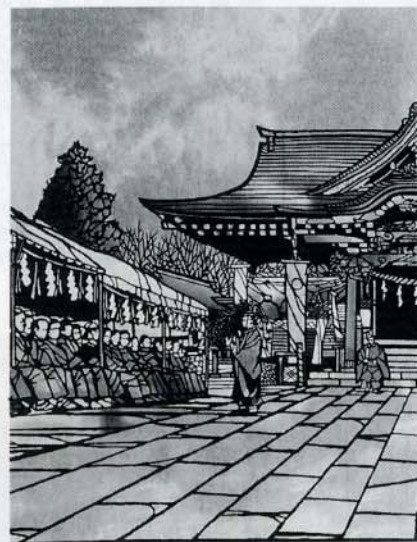
日本とおなじように米国型国際化にさらされている筈の西欧諸国やその都市社会は、さすがした

たかにEJという欧州共同体を結成してアメリカ文明の支配をはねかえしながら伝統豊かで個性的なそれぞれの都市の生活文化を守りぬいておりますが、残念ながら日本社会の場合、戦後以来、政治経済はおろか教育文化やマスコミを挙げてアメリカ崇拜一辺倒になってしまったために、いままでも規制の政府が弱腰になると一挙に全国すみずみの地域社会まで、いわばはだか同然の無法地帯になってしまいました。自治体や住民運動の抵抗空しく米系大資本ぐるみの大企業が競って集合大型スーパー基地を各都市の郊外に展開し、遊園地ばりの鳴物入りで若者中心の消費者たちを吸い寄せてしまって、従来の小規模なマチ社会ごとの商圏を根こそぎ荒らしはじめているのです。そのありさまは、まるで南海の美しい珊瑚礁に大量発生したオニヒトデが一斉に食い荒らして珊瑚を死滅させている惨状に等しいのです。なぜなら、こうした大型の店舗基地は安価な都市近郊の田畑を潰して巨大な倉庫のような安手の店舗と広大な駐車場を作り、いっとき盛大な商いをして、やがて飽きられて採算が採れなくなれば、きつとささと撤退してしまい、あとに残るのは巨大な店舗群の残骸と、商店街が死滅した廃墟の町ばかりになりかねないからです。

○商売はコミュニティ文化

外国資本の圧力で「大店法」が廃止される代わりに、「大店立地法」が制定されました。今までは売場面積など一律に制限されていたが、今度はそれが撤廃される代わりに大規模店舗の進出について地元自治体や住民たちが受け入れるか否かの自主的判断が尊重されるはずで。

そこで地元市町村や住民の皆さんに是非考えていただきたいこと



があります。それは、商いが単なるモノの流通ではなく、大切なコミュニティの生活文化だということ。売る人も買う人も同じマチ衆の仲間です。お互いにお互いの立場を思いやって商品といっしょに心を通わせる大切な機会なのです。自分たちの商売こそがお互いに我がマチを支え合ひ、共に生活の温もりと人情の有り難さを交わし合うマチ衆の文化であることを、今こそ誇りをもつて確かめようではありませんか。

【表紙歌解説】

曳き廻す山車と人々に満てる町

風花ひとと舞ひてやみにし

今回の表紙の歌は、秩父市上町にお住まいの柿塚欣一郎先生の歌集『冬祭』から掲載させていただきました。

数年前の「夜祭り」当日の朝のこと、空は鈍よりとした灰色の雲に覆われ、その遥か彼方から冷たい風にとて「白い小さな花々」が舞降りてきては、お祭りの準備に夢中になっている私達の気持ちに焦らせました。

しかし、この「花々」は決して天候が荒れ狂う前触れを意味するものではなく、また次の年も実り多き一年を約束する「お山」からの予祝を意味するプレゼントだったのかもしれない。

【表紙解説】

今回の表紙は、群馬県桐生市在住の切り絵作家で、埼玉県・彩の国大使を務めている石井一臣さんの作品を掲載させていただきました。

石井さんは昭和四十三年より切り絵の創作活動を開始。昭和五十六年には州立エミリーカー美術大学において切り絵の講師を務め、又翌年にはフランス・アメリカ・カナダ・西ドイツにて個展を開くなど国際的に幅広い活躍をされています。平成五年には切り絵美術館を開館。平成七年には埼玉県・彩の国大使を委嘱され、埼玉県内各地の風景や郷土芸能など、色彩ゆたかに表現され、この度の表紙絵も「秩父夜祭り」に関する切り絵のなかから宮地屋台を掲載させていただきました。

尚、表紙の切り絵は、秩父市番場町にお住まいの関根信夫さん所有のものを特別にお貸しいただき、掲載させていただきました。

氏子青年会報告

初代会長 今井奎吾氏
全国氏青協特別功労賞受賞



去る八月一日、東京赤坂プリンスホテルに於いて全国氏子青年協議会創立三十五周年記念大会が開催され、その席上当社氏子青年会初代会長（現顧問）今井奎吾氏が特別功

労賞を受けられた。全国大会への参加は平成七年の新潟大会に続き二度目の参加であるが、もちろん関係者の受賞は初めてであった。

氏は、当会結成当初より発起人の一員として参画し、二期四年に亘り初代会長を務められた。その間持ち前の熱い敬神崇祖の情熱と行動力で事業等の企画や役員の指導的役割を果たし、平素の神社活動への力強い支援を行ってきたことは氏子崇敬者、とりわけ青年層の範であり、当会の結成・発展に著しい貢献をされ、実に六百有余名の会員を有する今日の活発な活動の基礎を築かれた功



績が認められたものである。

午後一時、予定通りの開会となった。三笠宮寛仁親王殿下、同妃殿下御臨席の下先ず雅楽と舞楽が奏された。引き続き大会に入り、殿下の御言葉を賜った後、来賓の挨拶がなされた。その後表彰式が挙行され、各受賞者は参加総数約九百名の拍手によって祝福された。

続くレセプション1では富岡八幡宮の大神輿が担ぎ出され通常では昇ぐことの出来ないこの神輿に、祭り好きの参加者は我先と担ぎ棒につき「わっしょい！」の掛け声と共に会場狭しと渡御した。

レセプション2の懇親会では全国各地から集まった単位会同志と友好の輪を広げながら大いに我等が代表の祝福を申し上げたのは云うまでもなく、全日程を終了後も席をかね夜更けまでその喜びに浸った。

観月コンサートを終えて

実行委員長 大曾根 健次
担当副会長

去る十月十九日、恒例の観月コンサートが開催されました。観月コンサートですから境内でお月見をしながら聴いていただければ最高なのですが、天候も考えながら平成殿の完成に伴って行った昨年の「柞の杜のコンサート」にならって、新館一階ロビーを提供いただいたの演奏会となりました。

常に自分達の手づくりをモットーに準備して参りましたこのコンサートも早七回。昨年を含めると既に八回を数える程になりました。今回も田辺先生にご協力戴き馴染みの尺八や箏に加え三弦と横笛、更には語りのメンバーを揃えていただき



ました。殊に語りが入ったことや、今回のためにと新作で然も初演の、秩父夜祭りをイメージして作っていた「朝未だき峯

（あさまだきみね）」と言う曲を用意していただきましたので一味違ったコンサートに仕上がったと感じましたが如何だったでしょうか。照明の効果や演奏者と語り手の息の合った曲の流れるそのひとときはご来場の皆様にも満足いただけたものと確信しております。

今回日程の変更、出演者のスケジュール調整といった数々の難関を経ましたが、出演者、実行委員そして神社職員の方々とスタッフ全員の協力があったの事と深く感謝申し上げます。

「氏青勉強会」開催

十一月十三日夕、恒例の氏子青年会主催「夜祭り関係勉強会」が開催された。既に屋台町六町についての勉強を終え、今回は神社行列についての話を聞きたいとの要望もあったため、浅見武史欄宜が講師となり「御神幸祭」を中心に講義がされた。会員の中には祭りに携わる者が多くメモをとるなど熱心に聞き入っていました。

「柞の杜落語会」開催

八月二十八日、十一月二日の二回にわたり斎館二階大広間を会場に落語会が開催された。出演は三遊亭円楽師匠の弟子、三遊亭栄楽師。氏は皇学館大学卒業後この世界に入門、現在真打。テレビ等に出演はしないが、なかなかの実力派。伊勢の神宮会館を始め関東を中心に数箇所を会場に落語会を開いている。当社とのご縁はかつて蘭田宮司と新館完成の晩には高座を持つとの約束が実現したもの。

愛楽・神楽・上楽の各弟子さん達を前座に「死神」「ねずみ」「転失気」などの出し物で大いに笑わせ客席は時間の経つのも忘れるほどであった。

この「柞の杜落語会」は今後も年数回行われる予定。また、秩父出身で、林家門下二ツ目の



「たい平」氏がめきめき力をつけており真打ちの声もかかり、これまた楽しみの一つである。

梟だより



◆ 神社史料研究会開催のこと

八月二十二日から翌二十三日にかけ、平成殿一階の集会室で、第十五回神社史料研究会が、サマーセミナーとして開かれました。

当会は、神社及び神職家に伝わる、古文書・古記録を広く紹介し、調査・研究を深めることを目的としています。今回は、地元宮側町の作美陽一氏による「秩父祭りの周辺」・馬場直也氏による「埼玉の神社」調査報告・瀬戸薫氏による「後北条氏と鶴岡八幡宮の造宮」・森本ちづる氏による「鹿島神宮における物忌職」の四本の発表を頂きました。

特に、作美氏の発表は、「秩父祭りと埼玉の山車・屋台」の副題のもと、県内を中心に、広く関東地方に現存する山車・屋台・笠鉦を詳細に分析し、秩父地方のものの系譜や特異性を明らかにしたもので、大変興味深い内容でした。



◆ 諏訪神社「御柱祭り」のこと

去る九月二十六日と二十七日の二日間、当社境内に祀られる諏訪神社の例大祭が行われました。この社は、古来番場町の守り神とされ、もともとは町内に鎮座していたといわれます。

「御柱祭り」は、七年ごとに行われる長野県諏訪市に鎮座する諏訪大社の祭りを取り入れ、毎年の例大祭をさらに盛大にしたものといえます。



昭和六十二年に始められ、平成四年に続き、今年で三回目となります。

「御柱」は宵宮である二十

六日早朝に切り出されました。そして、同日午後六時、あいにく小雨の降るなか、奉曳に際しての清祓い神事ののち、番場町の青年部の人々により当社の境内に引きいれられ、無事に「御柱」を立て終えました。

その晩、青年部の人々は当社に参籠。翌日には、例大祭が賑々しく斎行されました。

◆ 蘭田宮司「国際学術会議」

出席のこと



宮司は、去る十月十八日に渡米。ニューヨーク市の国連本部と国立自然史博物館とで開催された「国際学術会議」に出席して、同月二十六日に無事帰国しました。

同会議は、米国ハーヴァード大学と国連環境プログラムとの共催で、「宗教とエコロジー」をテーマとする一連の研究会議を締めくくる公開シンポジウムです。

宮司は、世界各宗教の専門家とともに、日本宗教、とくに神道を代表して討議に参加しました。

◆ 「石井一臣切り絵展」のこと

十一月十四日より十二月六日まで、平成殿二階の展示ホールにて、「彩の国文化大使」石井一臣さんの切り絵展が開かれています。折しも、当社の例大祭の時期に当たっていることから、市内に所蔵される、笠鉦・屋台を題材にした作品を中心に展示してあります。それを示す次の通りです。

中近笠鉦 高橋信一郎氏
下郷笠鉦 星野進氏
宮地屋台 関根啓三氏

◆ 秩父神社妙見講

上町屋台 内田全一氏
中町屋台 藤屋衣裳店
本町屋台 清水写真館
皆様のこ来社をお待ち致しております。

自 平成十年 六月
至 平成十年十一月

六月二十八日下郷講
加藤達次郎講元外五百一名
九月二日幸手講
大久保利一講元外四十四名
九月十四日川口三栄講
金子秀行講元外二十八名
九月十五日中村講
高橋信一郎講元外四百六十四名
九月二十日上町講
半田鍋夫講元外二百三十八名
九月三十日荒川講
新井文久造講元外二百二十三名
十月十一日上宮地講
斎藤愛治講元外百七十六名
十月十六日東町講
出浦雄雄講元外百三十二名
十一月十一日番場講
持田恭三講元外百二十名

前回第十七号におきまして、下郷講々元様のお名前に誤りがありましたので、ここに訂正しお詫びいたします。

古館 興・現代墨絵展 並び墨絵寄贈報告

十月一日より二十日までの期間「平成館」二階展示ホールに於いて、小鹿野町飯田にアトリエのある水墨画家・古館 興さんによる現代墨絵展が開催されました。

古館さんは、昭和十九年（一九四四）中華民国（張家口）生まれ。

二科展。ジャパンアートフェスティバル。新象展。毎日現代美術展。アーティストユニオン。国際青年展。駒展。人人展。墨絵展。全国水墨画秀作展。他数多く出品され、またTV東京、フジTV、TV埼玉で紹介放映されるなど幅広く活躍されています。

古館さんの作品は、私たちが連想する水墨画というイメージを遙かに越え



作者 古館 興氏と宮司



「樹木祭」

宇宙的な広がり、どこか昔なつかしい日本の風景が窺えるような不思議な世界が表現されていて、観る者の心を遠く異次元の空間へと誘ってくれそうな印象をうけました。

またこの度の秩父神社における企画展にも展示されていた、「樹木祭」と題するお伽話の世界のような木の葉がお社まで行列をくむ様を描いた墨絵屏風作品を作者である古館さんより寄贈いただきましたので紹介させていただきます。

◆ 小鹿野町奈倉妙見宮祭

歌舞伎が盛んで有名な秩父郡小鹿野町。その小鹿野町奈倉に鎮座する奈倉・妙見宮の例祭神事が、本年十月三日に斎行されました。

奈倉には、宮沢賢治が学生時代に地質研究に訪れた『ようばけ』『よう』『夕日』を意味し、「はけ」は「はけ」は断層と捉え夕日に照らされた断層面を意味している。があり、その昔は三峰街道の入り口にあたる宿場町として大変な賑わいを見せていたといえます。

その奈倉に妙見様が祀られたのが、永禄元年（一五五八）。奈倉重家が秩



新創作神楽「つなぎの龍」

父の妙見菩薩（秩父神社）を勧請したものと伝えられ、奈倉の鎮守の神として信仰されてきました。

地元の人々によれば、古くから伝わる話のなかに、秩父神社の妙見さまとこの奈倉の妙見さまは姉妹関係にあり、また現在秩父神社の本殿東側に彫刻されている左勘五郎作「つなぎの龍」はこの奈倉から奉納されたものだと言われているそうです。

そして、この秋の祭礼に奈倉神楽保存会による「秩父伝説の神楽化」として新創作神楽「つなぎの龍」が奉納披露され、古くから当社の御祭神と縁も深いこの奈倉・妙見宮に、また新たなつながりが「神楽」を通してこの度誕生しました。



奈倉公会堂にある妙見様額

編集後記

■奈倉の妙見宮の祭礼で紹介しました新創作神楽「つなぎの龍」も、秩父地方に古くから語り継がれてきた伝説的なお話の一つであり、また、ここに迎える当社の例大祭「秩父夜祭り」にも大変微笑ましい神話が語り伝えられております。

当社にまつる「妙見様」は女神さま、そして神体山に当たる「武甲山」に棲む神が男神さまで、お二人は互いに相思相愛の仲なのですが、実は男神さまには町内に鎮まるお諏訪さまが正妻としておいでになるため、毎晩逢うことが叶いません。そこで年に一度だけ、お山と神社の中ほどにある「お花畑」で一時的逢引きをいとなまれるというのが「夜祭り」と呼ぶ起因となっているのです。

また、当社の妙見様は、「花園妙見」の流れをくみ、夜祭りの御神幸がはじまると百花繚乱の「花火」が打ち上げられ、また祭場を「お花畑」と呼ぶ等「はな」に纏わる妙見様と言え、花は実を結ぶ前触れを意味するものであります。

■ここに社報「柞乃杜」第十八号をお届けし、来年もまた皆様にとってゆり多き年であることを社頭よりお祈りいたします。

平成十年（一九九八）十二月三日

編集 秩父神社 社務所

発行 秩父神社 社務所

〒266-0404 埼玉県秩父市番場町一

TEL (0492) 221-0262

FAX (0492) 241-5596

印刷所 有限会社 誠文社 印刷所

〒266-0404 秩父市東町二七七八